

彼女の名前は
霧崎由真

少しヌケてる
所もあるけど
活発で純真爛漫な
素敵な女の子だ

入学してから半年たたずだけど
その明るく誰にでも壁を作らない
性格に俺はいつの間にか
心を惹かれていた
：

— そんなある日
俺は心に決めて

彼女に告白することにしたんだ

えつ…あつ…
へへ、嬉しいけど

私、鈴谷君が
思うような
子じゃないよ？

ごめんね

えつ…思うような子って…
いや、俺はずつと見てきた
誰よりもこいつの事を…

結果はあえなく玉碎だつた
でも、彼女の口ぶりから
どうしても諦めきれなかつた
別に彼氏がいるからとはな
言わなかつた
かつた
んだ：

その後も俺は彼女に
何度も告白をした

そしてある日…

彼女からの答えが
変わつたんだ



鈴谷君…ホントに
私のことが好きなんだね…

それじゃあ…明日の夜8時
駅前の交差点で待つて？

これはもしかして
デートの約束なんじゃ
ないか…？

俺は勝手に舞い上がつて
その日の夜シャワーも浴びて
万全の思いで待ち合わせ場所へと
向かつていった

うーん：
落ち着かないなあ…
補導されそう…

ん…?
霧崎?

あれは…



俺の視線の先では彼女と
見覚えのないサラリーマン風の
オジサンが仲良く腕を組んで
歩いていた

さらに俺を驚かせたのは
霧崎のその格好だったた

普段の霧崎からは想像もできない
ような大人びた——というよりも
派手な口ひき服装で上から下まで
揃えていた

ど、どうい……？

あれは……
彼氏……なのか？

霧崎みたいな大人しめな
女の子がこんな時間に親父
くらいの年の人と腕を組んで……

息が詰まる
喉が焼ける
声が出ない





その時、彼女がチラリとこちらに
目を向けまた視線を親父に戻した



そして――

つ!!

ホテルに入つていつた

そんな所に入る理由なんて…
そんな所ですることなんて…
嫌でもわかる…

落ち着いた？

あ、うん…

学校でずっと
見ててくれてたよね……
私も鈴谷君の事好き

さつきのも……！
見ててくれたでしょ？

あれつて……うん……てか

そう、
援助交際

……つ！
なんで、そんな…

好きなの……
援助交際…

お金を貰うのも
知らないオチ○チン
舐めるのも…犯されるのも

……嫌いになつたよね？

嫌だ、その行為は絶対に
認めたくはない
でも…

それでもそんな急に
諦められるわけ…

……嫌いになんか…
ならない

そう、それも含めて
彼女そのものなんだから
と思つたのだけど――

……嫌いになつたよね？

嫌だ、その行為は絶対に
認めたくはない
でも…

それでもそんな急に
諦められるわけ…

……嫌いになんか…
ならない

これでも…?

そう、それも含めて
彼女そのものなんだから
と思つたのだけど――

……嫌いになつたよね？

嫌だ、その行為は絶対に
認めたくはない
でも…

それでもそんな急に
諦められるわけ…

嫌いになんか…
ならない

そう、それも含めて
彼女そのものなんだから…
と思つたのだけど

これでも…?

メロディ

その瞬間、今まで想像しまいと思ってた
光景がリアルに想像出来てしまい—



「俺の精神は
もう限界だつた

うつ……おえええ…

これが…私の

そう彼女は言つた

—あんなこと、受け入れられるはずもないけど
彼女を諦めることも出来ない

そんな中途半端な気持ちのまま…

俺たちは男女の仲として
付き合う事になつた

男らしさを見せたかつたのかもしれない
混乱する頭の中で、俺は彼女に言つた

…全てを受け入れるから
…隠し事はしないで欲しい

—2日後

付き合えるなんて
夢みたいだ：

だが俺の心は晴れなかつた

しかし「アレ」だけは：
夢であつて欲しい

そんな気持ちをよそに

彼女からメッセが来た





※体験版はここまでとなります
続きは「援交彼女」製品版でお楽しみください
製品版では文字ナシverのおまけが同梱されます

どこ見てるの?
フフッ!大丈夫だよ!

エッチした後、オジサンと
シャワー浴びてきたもん

無邪気に笑う彼女

に語り聞かせる。
抱かれ喘ぐ様を。

……由真の脇内は最高だよ
夫に俺の子種が出てるのが
るかい?”って

止まらない
生々しい話

彼女

つ…こ、怖く…
なかつたの?

俺やっぱりちよつとは
も達でもいざしてみた
んなどなかれ

彼女は今日も
俺以外の男

俺以外の男

援交

敏感などころを

せーえき
だ。つて
中に
てくるのが

ぬぶら…
し…